

青森県尻屋崎周辺海域におけるミズダコの性成熟

(資源管理型漁業推進総合対策事業、地域重要資源調査)

佐藤 恭成・早川 豊・中田 凱久
山内 高博・蛸名 政仁・小泉 広明・山田 嘉暢

資源管理型漁業推進総合対策事業（地域重要資源調査、ミズダコ、東通地区、実施年度：平成4～5年）の一環として、青森県東通村においてミズダコの生態に関する調査を行った。本報告では、前報に続き性成熟に関する項目についてその概要を報告する。

材 料 と 方 法

標本の採取は1992年11月から1993年11月にかけて行い、タコ籠漁及び樽流し漁により各月8～134個体合計627個体の標本を得た。全個体について体重、肝臓重量の測定、性の判別、生殖巣の色調の観察、雄について精巣重量と精莖のう等の重量の測定、精莖本数を算定した。精莖の長さは、個体別に全ての精莖の最大長を測り、その平均値を平均精莖長とした。雌については、卵巢重量を測定した後、輸卵管および輸卵管球内の精莖もしくは精子の存在により交配を確認した。

熟度の判別は、以下の基準に従って判別した。

雌 未熟：卵巢は白色。

成熟：卵巢は黄色。

雄 未熟：陰茎、精莖のうの中に精莖が見られない。

半熟：陰茎、精莖のうの中に平均精莖長70cm未満の精莖を持つ。

成熟：陰茎、精莖のうの中に平均精莖長70cm以上の精莖を持つ。

抱卵数は、1993年4～5月に採取した雌14個体について、卵巢内より約4gの卵を採取し、卵を計数し、個体別全卵数を算出した。

結 果

1) 雌 の 性 成 熟

未熟個体は周年、成熟個体は1月から5月に出現していた。最も小型で成熟していた個体は2月に採取した体重8.5kgの個体であった。交配個体は1月から4月に14個体採取された。雌1個体当たりの抱卵数は38,000～94,000個の範囲にあった。成熟個体の卵巢内には個々の卵粒が肉眼で認められ、特に3月から5月に大きい卵粒を有する個体が観察された。

2) 雄 の 性 成 熟

未熟個体は周年、半熟個体は3月から12月、成熟個体は12月から5月に採取された。半熟で最も小型の個体は7月に採取した体重4.6kgの個体、成熟で最も小型の個体は2月に採取した体重10.2kgの個体であった。雄の精巣の色調は、未熟個体では透明感のある白色、半熟、成熟個体では不透明な白色であった。

尻屋崎周辺海域におけるミズダコの成熟段階別出現時期と交配時期を示した（図1）。

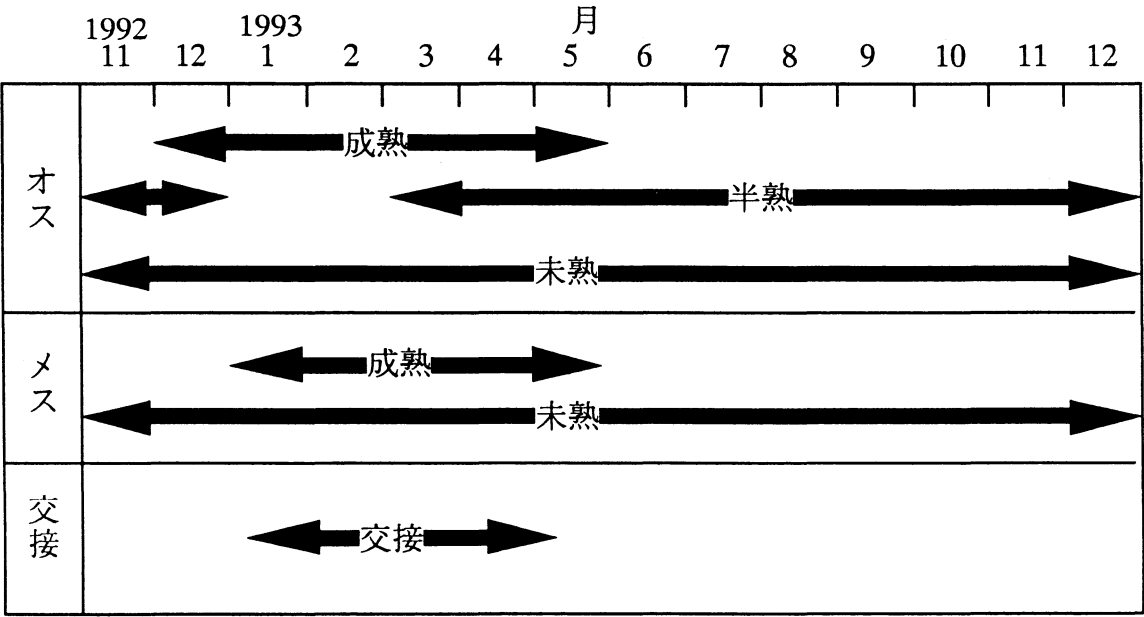


図1 ミズダコの成熟段階別出現時期と交接時期（尻屋崎周辺海域）

参 考 文 献

佐藤恭成（1993）：青森県尻屋崎周辺海域におけるミズダコの性成熟. 200カイリ水域漁業総合調査, 第14回東北区底魚研究チーム会議報告, pp. 74-82.

佐藤恭成（1994）：ミズダコの生態と資源管理. 水産の研究, 13(6), PP. 82-89.